

事例研究報告

特別支援学校中学部の生徒に 粗大動作の模倣を教える

生徒の実態

中学部男子生徒 知的障がい

■ 発達年齢:1歳7ヶ月

- 発語はないが、「あー」等の声で存在をアピールする。
- 「トイレ」「お母さん来た」「お父さん」等の簡単な言葉がわかる。

生徒の実態

- 弁別学習で
 - ① コップと皿のマッチング（実物をそれぞれ重ねて積み上げる）、
 - ② ラベルをはがしたペットボトルとフタをそれぞれ見本を置いてある場所に置く課題、
 - ③ 赤色と青色のレゴブロックを使って、色別に積み上げる課題、などに取り組んだ。
- ①については達成したが、②③については未達成である。

生徒の実態

- 「リサイクル用ペットボトルとフタをそれぞれの回収箱(かご)に分別して入れることができる。」を指導目標としていたが、学習を重ねるうちに、分別できるようになってきた。
- 9月頃に頻繁に大声(高音かつ大音量)を出す行動があるため、これを少なくすることが必要であると考え、この指導に取り組むことにした。

アドバイザーからの助言

- 小さな声には、しっかり反応しましょう（注目してあげる、「何ですか」と答える等）。
- 大声に対しては、逆に反応しないようにしましょう（目を合わさない、何事もなかったかのように対応）。



アドバイザーからの助言

- 生徒は人との関わりが好きであり、積極的に関わりを求めてきます。
- コミュニケーション手段の基礎となる「模倣行動」スキルの獲得をめざしましょう。模倣行動はコミュニケーションの遊びでもあります。粗大動作の模倣だけでなく、微細な模倣、発声、発語の模倣に発展していきましょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、コミュニケーション手段の基礎となる「模倣行動」スキルの獲得に取り組むことにしました。

指導1: 動作模倣を教える

- ① 最初は教員2人で、下校前の5分間、「着替え・学習ブース」でおこなった。1人は見本を見せ、1人は生徒の後ろから腕等を持って同じポーズをとれるように支援を行ったが、興奮してうまくいかなかった（模倣種類は3～5種類。歯をさわる、鼻をさわる、おでこをさわる、耳をさわる、手をひざ）。

指導1: 動作模倣を教える

- ② 次に1人の教員で対面学習場面で行うように変更（以後1人の教員で指導。模倣の種類は頭をさわる、をプラスして6種類）。
- ③ 模倣の種類を「足を床にとんとん」を加え7種類に。
- ④ 学習への集中度が下がってきたため、ご褒美にアニマル帽子を教員がかぶりスキップをすることにした。とても喜び学習意欲が増してきた。

指導1: 動作模倣を教える

- ⑤ 周りの人たちが気になるため、別室に移動して学習することにした。模倣種類は成功率の高い2種類(耳をさわる, 手をひざ)に限定した。
- ⑥ ご褒美の種類も増やし、猿やキリン, 仏像のお面などもプラスした。とても喜び、学習意欲も増し、成功率が高まった。

指導1の成果

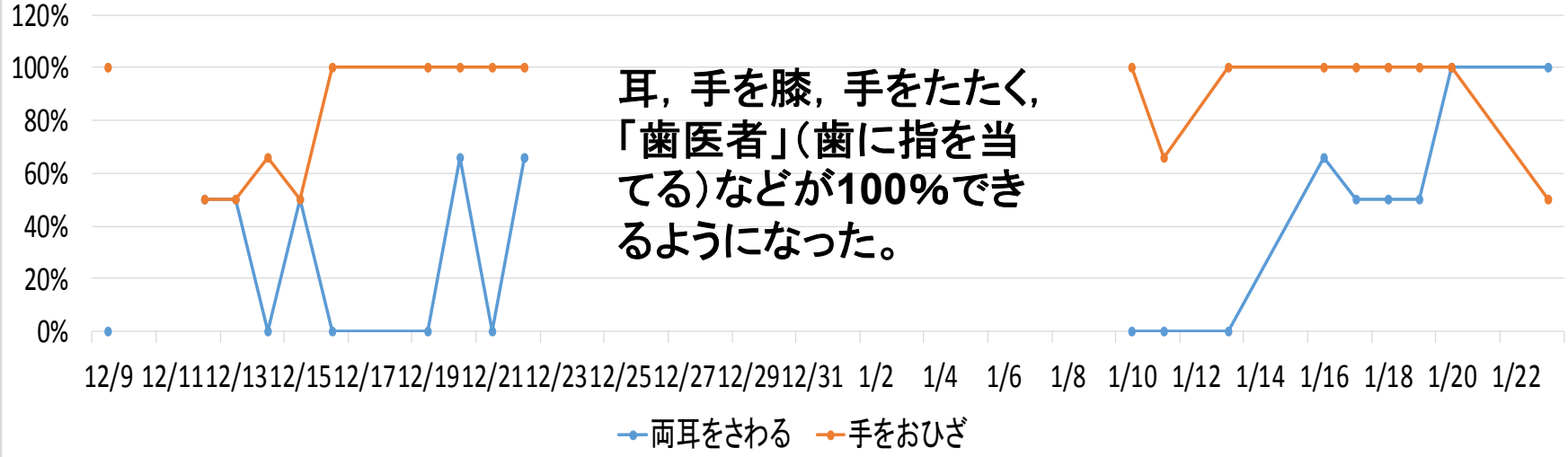
模倣学習の記録(2種類×2回:時間は3分間)

※12/13から別室での学習(3分間)に変更した。

模倣の成功回数 ※0/2は、2回中0回の成功割合。

日付	12/9	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/19	12/20	12/21	12/22	1/10	1/11	1/13	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/23
両耳をさわる	0%	50%	50%	0%	50%	0%	0%	66%	0%	66%	0%	0%	0%	66%	50%	50%	50%	100%	100%
手をおひざ	100%	50%	50%	66%	50%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	66%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	50%

模倣の成功率(プロンプトなしでできた割合)



ここが成功のポイント



- 模倣学習と同時に行っていた
弁別学習についても、注目する
力がつき、成功率が向上した。
- アニマル帽子、お面(猿やキリ
ン、仏像など)、風船などを用意
し、次々と面白そうな物をご褒美
として用意し、動機付けを高めた。
- 模倣学習を楽しめるように
なった。